

宿縁

十月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL〇四七―三七二―〇二九一
FAX〇四七―三七二―〇二六一

世間に埋没せず 仏道に精進する



みなさん！迷惑をかけずに生きられますか？

「迷惑をかけたくない」という言葉は常識で考えると心地よく感じますが、果たして私たちは迷惑をかけずに生きられるのでしょうか。

* 「いつもご迷惑をおかけします」

* 「私は人様に迷惑をかけていません」さてあなた自身、どちら派ですか。

前者は日頃仏法を聞いている人、後者は世間の常識だけで生きている人と言っても良

いのではないのでしょうか。

もうだいぶお年を召されているのではないかと思います。在日朝鮮人作家で親鸞聖人の教えを深く仰がれて生きる高史明(コサミョン)先生は、当時十二歳だった一人息子、真史(まさふみ)君の自死を経験して、彼から気づかされたこととしてこう語られています。

中学生になった息子の真史君に、こう言いました。

『今から君は中学生になった。これから自分のことは自分で責任をとりなさい。他人に迷惑をかけないようにしなさい。自分の人生だ。自分の思いで生きていきなさい。』

しかしその夏、真史君は自殺した。今、高先生はこう振り返る

「子供に向かって親が言っていることであつたのか。違う風に言うべきだつたと思う。

『自分の人生だ。』と言う前に、『道が歩けるのは道を作った人がいるんだ。世界中の人がいて初めて道を歩けるんだ。その人がいるということを知ること、が、まず自分にとって一番大事なんだ。他人に迷惑をかけないとは、他人の迷惑の上に自分が成り立っているんだ』という言葉を、はじめに言うべきだつた。」さて、自分を含めてほとんどの人が、「他人

に迷惑をかけてはいけない」と、それが当たり前のように思つてはいなかったでしょうか？

高先生は取り返しのつかない悲しみを通して、長い暗いトンネルを経て「いのちとは何か。そして生きることの意味について。」教えてくれます。

小児科医で小児がんと取り組んできた細谷亮太先生は、幼くして死と直面してしまつた子供たちと、その親たちのケアを日々行つています。細谷先生は高先生との対談で「残された人は長く生きなくてはいけない。」と、そう思うきっかけとなつたあるお話をされています。

『先生が医師になりたての頃に見送つた患者さんで、十分なケアをしてさしあげられなかつた「心のトゲ」のようになっていた患者さんが何人かいるそうです。そういう患者さんのお母さんの一人から三十年ぐらいたつて突然お手紙をいただいた事があつたそうです。一回も連絡もないから「きつと僕のことを恨んでいらつしやるんだらう」と思つたりしていた先生に、三十年後初めて来た手紙にはこう書かれてあつたそうです。「実は先生は医者になつたてだったけど、うちの子は先生のが大好きで、来てくれるのをとても楽しみにしていたんです。」と。

そうするとやっぱり三十年僕が生きてなかつたなら、そのメッセージは届かないまま、僕はきつとトゲを刺したまま死んだんだらうと思ひますし、そういう亡くなった人からのメッセージが届くまでにとつても長い時間がかかるっていうことが、自分

で経験して初めてそう思います。

三十年たつたらお集まりになるお母さんが泣かなくなるかつて言うところ、そんなことはないんですよ。ただ、その泣く涙も最初の涙とちよつと違って、お母さんに言わせると、涙を流すと気持ちのいい涙が流れるようになるというようにことを言つてくださる。』

これに對して、高先生はこう呼応します。『そうですね、時間がかかりますねえ。でもそういうことがあるからこそ、人間の生死というのは深みが出る。人間って言うのは長い時間をかければちゃんと立ち直れて、生きていけるんだということを信用することができたりするんです。』

いま、私たちは人生さも分かつたように「終活」の文字が氾濫していますが、仏法の前にはつかりと身を置きたいものです。

科学的論理と証明こそが、人間を救う世界を救うように錯覚した社会を生きる私たち、早くそのことに気づかねばなりません。

真宗の学僧曾我量深師は二つの不思議を次のように言われています。

自然科学の不思議は、「人間が生きていることが不思議だが、法則が分かれば、ああそうか、そういうことだつたかと思ひでなくなる。」

仏法不思議は、「はじめは不思議でもなんでもなかつたが、それが本当に分かつた時は、頭がさがりいよいよ不思議だと感じる。」

濁世の世界にいつまでもしがみつけないで、もっと広い豊かな世界へ目を向ける道を先人はすでにつけてくださっています。「すでにこの道あり」人生即ち念仏道です

【寺灯雑記】

○秋の彼岸会法要が勤まる

9/23

九月に入り、一度は涼しい日が続きましたが、お彼岸に入ると残暑が厳しくなり、お中日の彼岸会法要でも本堂内では扇風機がフル稼働するなか、多くの参詣者とともにお勤めをしました。

「讚仏偈」の読経、讚仏歌「衆会」の唱和の後、この日ご講師の阿満利磨先生よりご法話いただきました。

阿弥陀さまのおはたらきは私たちがお称えする「南無阿弥陀仏」のお念仏となつて、いま間違ひなく私に至り届いて下さると、お取り次ぎいただきました。先にお浄土に参られた先人を偲び、お念仏の人生を歩ませていただく有難さをあらためて味わわせていただきました。

○合同墓建立工事始まる

今月より、本格的に合葬墓建設の工事が始まりました。また、それに伴って今までの水場が撤去され、新たに第二墓地入口より正面壁に面したところに水場を設置しました。また、手桶置き場は一時的に撤去しております。引き続き、お墓参りの際にはご不便をおかけしますが、宜しくお願い致します。



○鬼滅の刃の玩具に南無阿弥陀仏発見

昨年の映画の記録的大ヒットで、ご存じの方も多いアニメ「鬼滅の刃」。先日、息子にその「鬼滅の刃」関連のミニカーをいただいてビックリ！ 車体には「南無阿弥陀仏」の文字が描かれています。



調べてみると、その作中にて「南無阿弥陀仏」の描かれた羽織りを身につけ、念珠を携え、念仏を称え、主人公とともに戦う悲鳴嶼行冥(ひめじまぎようめい)というキャラクターをイメージしたものでした。案外、子どもたちの方が大人よりもお念仏を身近に感じているのかもしれないですね。

○永代経懇志進納

麻木里子様

【二〇二三年にご本山で慶讃法要】

二〇二三(令和五)年は宗祖親鸞聖人のご誕生から八五〇年目にあたります。また、その翌年には親鸞聖人が、『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を著され、浄土真宗の

み教えを開かれた「立教開宗」から八〇〇年をお迎えする年となります。

ご本山の西本願寺では、二〇二三(令和五)年三月から五月に、三期三十日間にわたり、その慶讃法要をお勤めいたします。

法要のスローガンは「ご縁を慶び。お念仏とともに」。親鸞聖人が浄土真宗のみ教えを説き示してくださったことへの感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、「立教開宗」に感謝する慶讃法要をとともにお勤めさせていただきますよう。

【ご門主のご親教より】

今年春、ご門主がご親教(法話)のなかで、次の世代の方々にもお念仏のみ教えがわかりやすく伝わるよう、その肝要を「浄土真宗のみ教え」として、お示しく下さいました。この「浄土真宗のみ教え」は今後、本山での法要などで唱和されるようです。共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきますよう。

浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の

弥陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとうといただいて

この愚身をまかす このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者となり

少しづつ執われの心を離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

【法座・行事の案内】

○婦人会法座(正信偈解説・善導大師)

十月二日(土) 一時

講師：前住職

○常例法座

十月十六日(土) 一時

講師：前住職

場所：中原寺

※年間行事で予定していた文化講演会会場・山崎製パン企業年金会館は、昨年引き続きコロナ蔓延防止のため本年も中止します。

○門信徒会役員会

十月十六日(土) 三時

○教行信証を学ぶ(信巻)

十月二十三日(土) 二時

講師：前住職

【十月の掲示板のことば】

仏法は

聞けば聞くほどに

頭がさがり

不可思議に感動する